



一平和学習一

4月19日(土)から2泊3日で長崎へ修学旅行に行き、平和学習を進めてきました。本校は、平和教育を教育の柱のひとつに掲げています。学校のすぐ横に位置する手柄山では、毎年10月26日に太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式が開催されます。その式典には校区の3小学校の代表者とともに、本校の生徒会本部役員が参列し、平和を祈念して生徒たちが折った千羽鶴を献納するだけでなく、ライブ配信される式典の映像を全学級で視聴してきました。また、放送部の生徒たちは、毎年7月に、戦争についての朗読を、学芸発表会では、朗読劇を披露してくれています。また、姫路空襲の語り部として、長年にわたって活動されている黒田 権大さんにも講演していただくなど、平和について深く考える機会を1年のうちに何度か設けています。

例年の修学旅行では、長崎で被爆者の方から体験講話を拝聴してきました。しかし、本年度は、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の「交流証言者」派遣事業(被爆体験を受け継いでいきたいという意思を持った第三者が、交流を深めた被爆者の体験や平和への思いを語る)を活用し、被爆者の吉田 勲さんの遺志を受け継いだ田平 由布子さんに長崎から本校に来ていただき、講演してもらいました。

この講演を聞いた生徒の感想を読みますと、今まで受けてきた平和教育とは違った印象を抱きながら、田平さんが核爆弾をビービー弾にたとえ、現存する核弾頭と同数のビービー弾を缶の入れ物に落としていく場面についての感想を書いている生徒が非常に多かったです。ビービー弾が缶にぶつかる音がいつまでも鳴りやまずに続く様子を、目をつむったまま耳を澄まして聞き入るうちに、現存する数多くの核兵器が使用されたら、と核の脅威を多くの生徒が感じたに違いありません。そして、この修学旅行では、実際に長崎の地を訪れ、平和学習でもっと学びたい、学んだことを引き継いで、多くの人々に伝えていきたい、と当事者意識を持って平和のために自分のことを考えてくれている多くの感想に接しました。

長崎では、真剣な眼差しで原爆資料館や被爆史跡を見学し、爆心地での平和セレモニーで緑学年のみんなで考えた平和宣言を読み上げ、黙とうし、全員で平和を祈念しました(以下に、その平和宣言を掲載します)。

一平和宣言一

私たちはこれまで、数多くの平和学習をしてきました。今日はじめて爆心地に立ち、ここで多くの方々が亡くなられたと思うと、今、当たり前過ぎてしまっていることのありがたみを痛感させられます。

そこで私達は、次のことを宣言します。世界を平和にする第一歩として人の意見を否定せず、肯定的に受けとめ対話していきます。一人では達成できないことは、仲間とともに協力し、支え合い、達成に導きます。

そして、学年の中だけではなく、学校、地域の輪をこえた人々の個性を認め、尊重し、多様性を大切にしていきます。

私達中学生が平和のためにできることは少ないかもしれませんが、今、行っている小さな努力の積み重ねで、いつか(永遠に?永久に?)戦争のない平和な世界になることを願い、ここに誓います。

姫路市立山陽中学校 3年一同

本校は、ファシリテーションの手法を様々な教育活動のなかで活用し、対話による受容的・共感的な組織風土が少しずつ各教室で醸成されてきています。この平和宣言にも対話を通じて他者を理解し、よりよい人間関係の構築を目指す態度がうかがえます。

結びに、広島原爆記念公園に隣接する原爆供養塔を守り続けた佐伯 敏子さんが、修学旅行で訪れる中学生によく話されたという講話を紹介します。

お釈迦様の国、インドに伝わる話です。

ある夏、日照りが続き、水不足が起きました。畑に引く水が無ければ農作物が育ちません。隣り合う2つの村では水の奪い合いが起き、いよいよ戦争に入ろうとしていました。

それを知ったお釈迦様は、それぞれの村の村長を呼び、

「なぜ戦うのですか」と尋ねました。「水がないからです」。

水がないとなぜ困るのですか。「水がないと、農作物ができません」。

農作物ができないと、なぜ困るのですか。「農作物がないと、村人の食べ物がなくなります」。

食べ物がなくなると、なぜ困るのですか。「食べ物がなければ、村人は死んでしまいます」。

そこでお釈迦様は、2人の村長に問いました。

「村人を生かすために、あなたたちは殺し合いをするのですか」。

2人の村長は顔を見合わせました。そもそも、戦争を始める理由は「水がない」からです。しかし、水はあります。あるからこそ奪い合うのです。生きるために殺し合うのではなく、生きるために分かち合うことを考えましょう、とお釈迦様が諭しました。

すると、村長は限られた水源を有効に使う手立てを相談し始め、戦争は回避されたそうです。

今回の修学旅行を通じて学んだ平和学習の成果が、これからの日本や世界の平和の実現に向け、発揮されんことを祈念します。